

# 2014年3月期 第2四半期 決算説明会



2013年11月

 **丸文株式会社**

(証券コード：7537 東証1部)

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

# 2014年3月期 第2四半期 連結決算概要

[www.marubun.co.jp](http://www.marubun.co.jp)

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

・2014年3月期の上期決算のご報告と事業戦略および今年度の見通しについてご説明いたします。

## 2014年3月期 上期 連結決算サマリ (対前年同期比)

### 売上高は、163.3億円 (+15.9%) の増収

- **デバイス事業** 通信モジュール向け特定用途ICやPCおよび周辺機器向けメモリーICが好調で17.8%増
- **システム事業** 試験計測機器で半導体非破壊検査装置が増加、持ち分法適用会社の子会社化で3.4%増

### 営業利益は、6.5億円 (+126.7%) の増益

- **販管費** 人件費の減少により2.8%減少

### 経常利益は、7.9億円 (+210.9%) の増益

- 持分法投資利益の増加
- 支払利息の減少

### 四半期純利益は、6.9億円増の黒字化

- 前期計上の特別損失の減少 (△3.4億円)

## 2014年3月期 上期 業績サマリ

(百万円)	13/3月期 上期		14/3月期 上期		対前年同期比		【ご参考】 14/3月期 期初予想	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	%	上期	構成比
<b>売上高</b>	<b>103,038</b>	<b>100.0%</b>	<b>119,373</b>	<b>100.0%</b>	<b>16,335</b>	<b>15.9%</b>	<b>99,000</b>	<b>100.0%</b>
デバイス事業	89,082	86.5%	104,950	87.9%	15,868	17.8%	84,650	85.5%
システム事業	13,955	13.5%	14,423	12.1%	468	3.4%	14,350	14.5%
<b>売上総利益</b>	<b>8,005</b>	<b>7.8%</b>	<b>8,448</b>	<b>7.1%</b>	<b>443</b>	<b>5.5%</b>	<b>7,700</b>	<b>7.8%</b>
販売管理費	7,487	7.3%	7,274	6.1%	△ 213	-2.8%	7,200	7.3%
人件費	4,754	4.6%	4,557	3.8%	△ 197	-4.2%	-	-
その他	2,732	2.7%	2,717	2.3%	△ 15	-0.6%	-	-
<b>営業利益</b>	<b>517</b>	<b>0.5%</b>	<b>1,174</b>	<b>1.0%</b>	<b>657</b>	<b>126.7%</b>	<b>500</b>	<b>0.5%</b>
営業外収益	284	0.3%	359	0.3%	75	26.6%	-	-
営業外費用	424	0.4%	360	0.3%	△ 64	-15.1%	-	-
<b>経常利益</b>	<b>377</b>	<b>0.4%</b>	<b>1,173</b>	<b>1.0%</b>	<b>796</b>	<b>210.9%</b>	<b>500</b>	<b>0.5%</b>
特別利益	2	0.0%	3	0.0%	1	18.2%	-	-
特別損失	386	0.4%	37	0.0%	△ 349	-90.2%	-	-
<b>四半期純利益</b>	<b>△ 106</b>	<b>-0.1%</b>	<b>585</b>	<b>0.5%</b>	<b>691</b>	<b>黒字化</b>	<b>250</b>	<b>0.3%</b>
期末従業員数 (名)	1,348	-	1,271	-	-	-	-	-

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

4

・連結売上高は、前年同期に比べ15%増の1,193億円になりました。

・デバイス事業は、前年度に引き続き通信モジュール向けの特定用途ICが好調を維持し、またPCおよび周辺機器向けのメモリーも売り上げが増加しました。

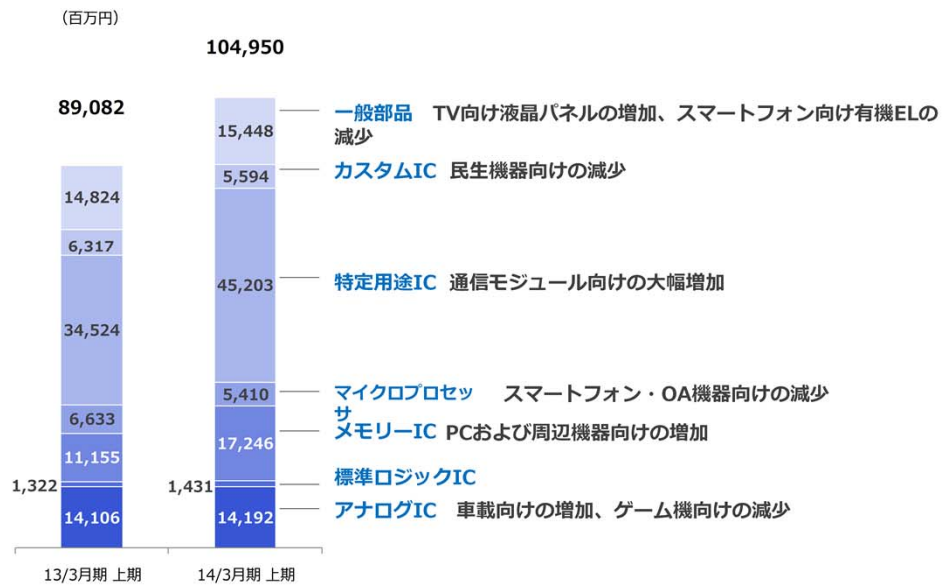
・一方、システム事業は、科学機器が減少したものの、試験計測機器で、半導体非破壊検査装置の増加や持ち分法適用会社の子会社化により売上が増加しました。

・販管費は、人件費を中心に前年同期比で2%の削減を図りました。

・その結果、営業利益は126%増の11億円、経常利益も3倍増の11億円になりました。

・上期に経常利益10億円を超えたのは2008年3月期以来、6期ぶりとなります。

## 2014年3月期 上期 デバイス事業品目別売上高



www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

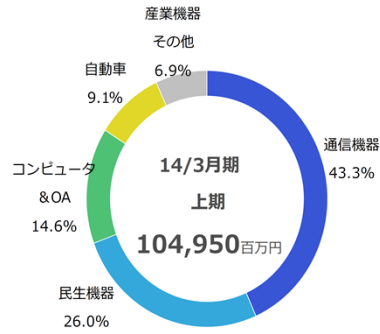
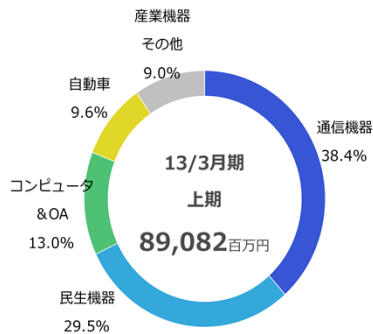
丸文株式会社

5

- ・デバイス事業の売上は、前年同期比17%増の1,049億円となりました。
- ・メモリーICは、PCおよび周辺機器向けのDRAMやフラッシュメモリーが増加しました。
- ・マイクロプロセッサの減少は、国内向けのスマートフォンやOA機器向けの減少によるものです。
- ・特定用途ICの大幅な増加は、通信モジュール向けの需要増によるものです。

## 2014年3月期 上期 デバイス事業用途別市場動向

用途	市場動向
通信機器	通信モジュールやスマートフォン向けが増加
民生機器	ゲーム機向けが減少、AV機器向けが増加
コンピュータ&OA	PCおよび周辺機器向けが増加
自動車	ナビゲーションやエンジンコントロール向けが増加
産業機器その他	産業用モータ向けが減少



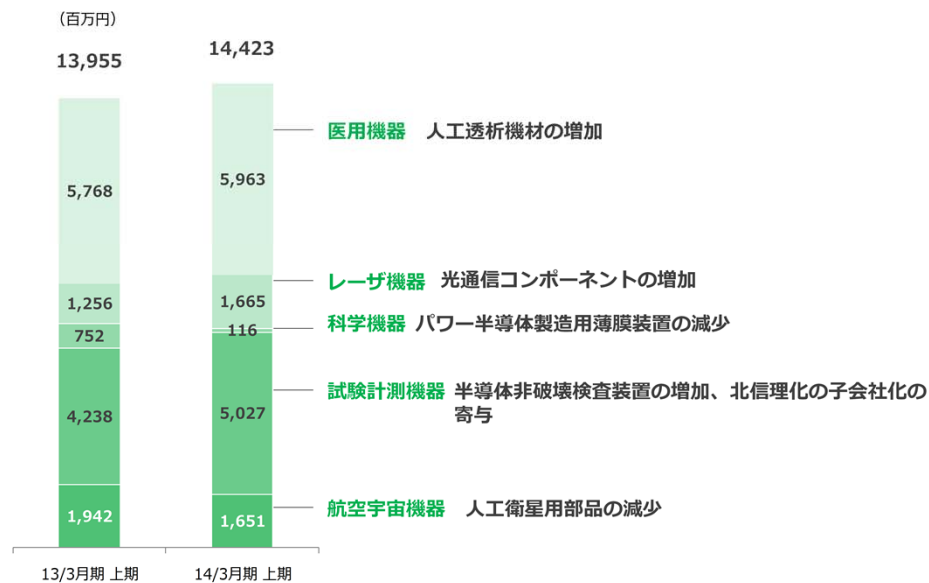
Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

6

- ・用途別の動向ですが、通信機器は、通信モジュールやスマートフォン向けが増加しました。
- ・コンピュータ・OAは、PCおよび周辺機器向けが大幅に増加しました。
- ・自動車は、ナビゲーションやエンジンコントロール向けが増加しました。
- ・以上の結果、売上構成比では、通信機器が43%、民生機器が26%、コンピュータ・OAが14%、自動車向けが9%となっております。

## 2014年3月期 上期 システム事業品目別売上高



www.marubun.co.jp

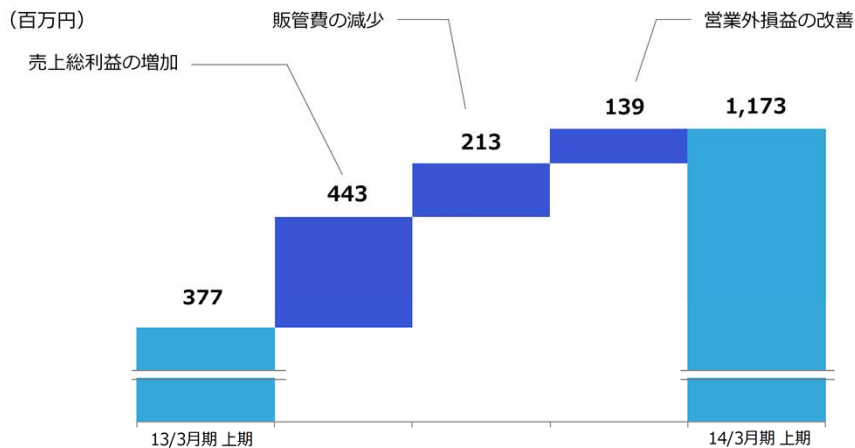
Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

7

- ・システム事業は、売上は前年同期比3%増の144億円となりました。
- ・試験計測機器は、スマートフォンやタブレット用の電子部品検査装置が減少したものの、半導体非破壊検査装置の売上が増加しました。
- ・科学機器は、パワー半導体製造用の薄膜装置が減少しました。
- ・レーザ機器の増加は、光通信コンポーネントの増加によるものです。

## 2014年3月期 上期 経常利益の増減要因



売上総利益 **売上増による増加** 12/9月期：80億円 ⇒ 13/9月期：84億円

販管費 **人員減に伴う人件費の減少** 人件費△197百万円、経費△15百万円

営業外損益 **持分法投資利益の増加、支払利息の減少**  
持分法投資利益+63百万円、支払利息△45百万円

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

8

・経常利益の増減要因についてご説明いたします。

・売上総利益は、前年同期に比べ4億増加し84億円となりました。

・売上総利益率は、利益率の低い商品が増加したことにより、7.8%から7.1%になりました。

・販管費は、人員減などにより2億1千万円減少、営業外損益は、持ち分法投資利益の増加や支払利息の減少等により1億3千万円改善しました。

・以上の結果、経常利益は11億円となりました。



## 2014年3月期 上期末 貸借対照表の概要

(百万円)	13/3月期末 実績	14/3月期 上期末 実績	対前期末比 増減額
流動資産	93,799	101,968	8,169
現金及び預金	17,440	19,942	2,502
受取手形及び売掛金	48,299	53,046	4,747
たな卸資産	25,426	25,946	520
その他	2,633	3,033	400
固定資産	10,943	11,285	342
有形固定資産	4,302	4,320	18
無形固定資産	406	414	8
投資その他資産	6,234	6,550	316
<b>資産合計</b>	<b>104,743</b>	<b>113,254</b>	<b>8,511</b>
流動負債	49,042	55,562	6,520
支払手形及び買掛金	33,523	40,081	6,558
短期借入金等 (※1)	11,743	12,023	280
その他	3,775	3,458	△ 317
固定負債	18,153	18,249	96
長期借入金等 (※2)	16,037	16,072	35
その他	2,115	2,177	62
<b>負債合計</b>	<b>67,195</b>	<b>73,812</b>	<b>6,617</b>
<b>純資産合計</b>	<b>37,547</b>	<b>39,441</b>	<b>1,894</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>104,743</b>	<b>113,254</b>	<b>8,511</b>

※1 短期借入金+1年内返済予定の長期借入金+1年内償還予定の社債

※2 社債+長期借入金

主にデバイス事業の売上増加に伴う増加

主にデバイス事業の仕入増加に伴う増加

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

9

- ・貸借対照表の主要科目についてご説明いたします。
- ・総資産は、前年度末に比べ85億円の増加となりました。
- ・これは、主に売上債権や現預金の増加によるものです。
- ・負債につきましては、仕入債務の増加により、前年度末に比べ66億円増加しました。

## 2014年3月期 上期 キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)	13/3月期 上期	14/3月期 上期	
	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,378	2,114	
税引前当期純利益	△ 6	1,139	
売上債権の増減額 (△は増加)	13,898	△ 3,179	主にデバイス事業における売上債権の増加
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 1,387	△ 146	
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 3,914	5,219	主にデバイス事業における仕入債務の増加
その他	△ 211	△ 918	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 92	△ 94	
フリー・キャッシュ・フロー	8,285	2,020	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,228	△ 205	
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,017	2,364	
現金及び現金同等物の期末残高	15,905	19,774	

www.marubun.co.jp

- ・キャッシュフローの状況ですが、当上期の営業キャッシュフローは、21億円の資金の流入となりました。
- ・これは主に、税金等調整前四半期純利益と仕入債務の増加によるものです。
- ・投資キャッシュフローは、1億円の流出となり、この結果、フリーキャッシュフローは20億円となりました。
- ・財務キャッシュフローは、2億円の資金の流出となりました。
- ・以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は197億円となりました。

## 事業戦略と重点施策の進捗

[www.marubun.co.jp](http://www.marubun.co.jp)

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

・デバイス事業、システム事業それぞれの事業戦略・重点施策の進捗についてご説明いたします。

## デバイス事業戦略

### ベースビジネスの拡大

- サプライヤが重視する指標のKPI化
- 車載・産業機器向けの販売強化
- グローバルサービスの強化
- 新規商権の獲得推進

### Demand Creation (DC) 機能の強化

- アカウント営業とDC機能の分離
- FAEの再配置（アプリケーション・技術別）

### 新規商材の開発推進

- 半導体：カスタム・ネットワーク向けIC
- 環境：結晶系太陽光パネル、バッテリー
- プリント基板・電子部品：単層・多層基板、コネクタ

市場の求める  
商品ラインアップ・  
サービスの提案

www.marubun.co.jp

・デバイス事業は、ご覧の3つの施策に取り組んでおります。

・「ベースビジネスの拡大」では、サプライヤが重視する指標をKPI化し、戦略共有を深めるとともに、安定成長が見込まれる車載や産業機器向け市場への販売強化と、海外での拠点展開、サービス拡充に取り組んでおります。

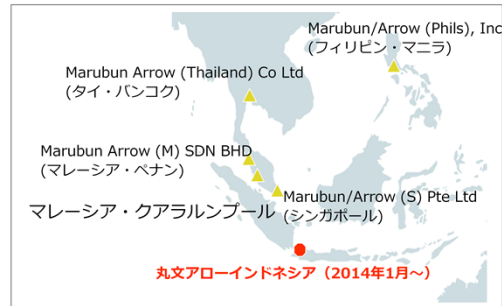
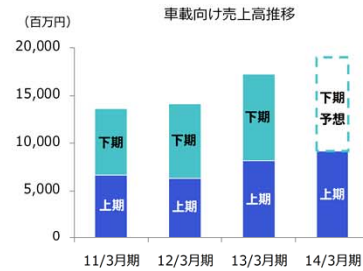
・「Demand Creation機能の強化」については、新規案件の開発やデザインインの獲得を加速するため、納期管理などの営業機能とデマンドクリエーション機能を分離し、技術サポートを行うFAEについてもアプリケーション、テクノロジー別に再配置して販売体制を強化しました。

・「新規商材の開発推進」では、“基板に搭載される全ての部材を取り扱う”をスローガンに、カスタム、ネットワーク向けの半導体や環境関連商材、プリント基板や電子部品などの収益性の高い新規ビジネスの立ち上げ・育成を進めております。

## デバイス事業：重点施策の進捗①

### ベースビジネスの拡大

- 圧倒的ラインナップを誇るアナログIC  
で顧客ニーズを深耕
- 車載向け事業が順調に拡大
  - アナログICとマイコンの組合せで  
取り組み強化
- 丸文アローインドネシアを新設
  - 2014年1月より営業開始予定
  - 自動車関連メーカーへのサポート強化



Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

13

・デバイス事業の施策の進捗ですが、まず「ベースビジネスの拡大」については、圧倒的なラインナップを持つアナログICを中心に、豊富な商材と長年培った技術サポート力をもとに顧客ニーズの深耕を進めております。

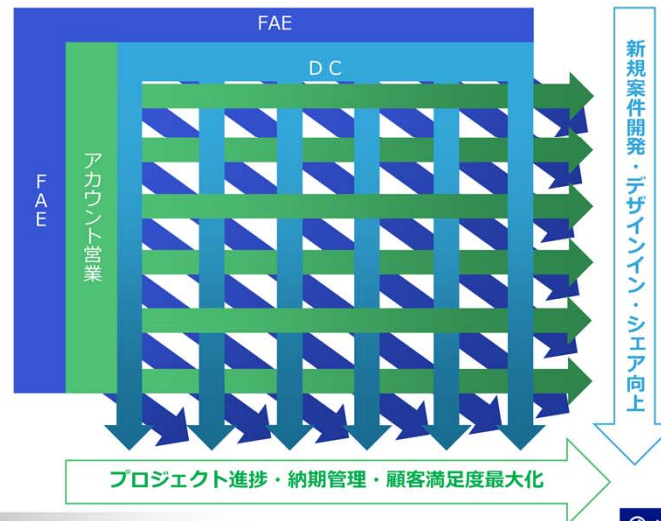
・車載向けに関しては、ご覧のグラフの通り売上が順調に拡大、今後も一層の伸長が見込める状況にあります。

・グローバル市場においても、2014年1月に丸文アローインドネシアを新たに開設し、現地に進出している自動車関連メーカーへのサポートを強化する予定です。

## デバイス事業：重点施策の進捗②

### Demand Creation (DC) 機能の強化

- 「DC」「FAE」「アカウント営業」が連携したサポート体制を構築
- シグナルチェーン全体を網羅したソリューション提案を推進



Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

・「Demand Creation機能の強化」については、ご覧の図の様に「Demand Creation」と「FAE」ならびに「アカウント営業」が連携しサポートを展開しております。

・お客様が開発するアプリケーションごとに最適な商材を組み合わせ、シグナルチェーン全体を提案、プロジェクトの進捗管理を徹底するとともに、アプリケーション開発を支援するオリジナル評価ボードの製作といった活動を通じて、1案件あたりの採用点数の増加を強力に推進しております。

## デバイス事業：重点施策の進捗③

### 新規商材の開発推進

- 半導体
  - カスタムIC
    - ・ OpenSilicon社ASICの受注推進
    - ・ QuickLogic社カスタム製品の取扱開始
  - ネットワーク向けIC
    - ・ IDT社タイミングデバイスの取扱開始
- 環境
  - 太陽光パネルと周辺システム等をパッケージ化
  - 農地活用で市場開拓
- プリント基板・電子部品
  - Molex社コネクタの国内展開スタート
  - Unimicron社プリント基板のデザインイン推進



IDT社  
タイミングデバイス



営農型太陽電池パッケージ

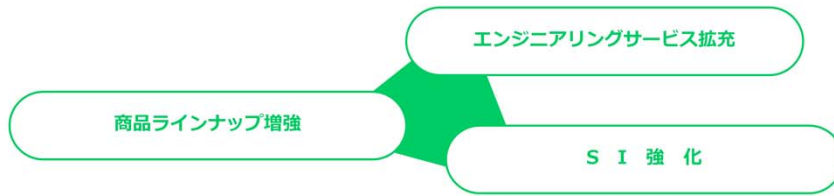
www.marubun.co.jp

・「新規商材の開発推進」については、OpenSilicon社のASICで大型案件が量産に向け順調に進んでおり、TI社やFreescall社のプロセッサとのインターフェイスに強みを持つQuickLogic社のカスタム製品やIDT社のタイミングデバイスもラインカードに追加しました。

・環境ビジネスでは、今年の春、農地を利用して太陽光発電を行ういわゆる「営農型発電設備」の設置が認められたのを機に、NexPower社の太陽光パネルに、周辺システムや施工・保証等をパッケージ化したサービスの提供を始めました。

・電子部品についても、丸文アローで既に取り扱い実績のあるMolex社コネクタの国内販売を開始しました。海外での実績を元に垂直立ち上げを図っていく考えです。

マーケットインからカスタマーインへ



試験計測・科学機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HV/EV向け組立・検査装置の採用促進</li> <li>・半導体非破壊検査システムの拡販</li> <li>・北信理化の子会社化</li> <li>・海外エンジニアリングサポート強化</li> </ul>
医用機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型営業推進</li> <li>・資本参加企業との協業でシェア拡大</li> </ul>
レーザー・情報機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NW機器で通信インフラ、スマートグリッド、金融市場を掘り起こし</li> <li>・産業用OEMレーザーの販売強化</li> </ul>
航空宇宙機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空・防衛向け高信頼性デバイスを拡充</li> <li>・人工衛星・航空機・自動車向けセンサー、解析装置を拡販</li> </ul>

www.marubun.co.jp

・システム事業では、これまでの「マーケットイン」の戦略をさらに一步推し進めて、個々のお客様のニーズに応じてソリューションやサービスを提供する「カスタマーイン」の思想で収益性の一層の向上とビジネスの安定化を図ることとしました。

・ご覧の製品分野ごとに、お客様が求める商品の品揃えを増強するとともに、システムインテグレーションやエンジニアリングサービスの強化による差別化に取り組み、お客様との関係強化を図っております。

・試験計測・科学機器では、ハイブリッドや電気自動車向けの組立・検査装置ならびに半導体非破壊検査システムの販売を推進しております。

・レーザー・情報機器においては、ネットワーク機器で通信インフラや金融市場のお客様を深掘りするとともに、産業用加工レーザーでもお客様仕様に合わせたOEM製品の供給に注力しております。

・航空宇宙機器では、航空・防衛機器向けの高信頼性デバイスや各種のセンサ、解析装置などのラインナップの拡充に取り組んでおります。



## システム事業：トピックス

### 校正サービスでISO/IEC17025の認定を取得

加速度センサの校正サービスで、校正能力・品質の国際標準規格「ISO/IEC17025」認定を取得

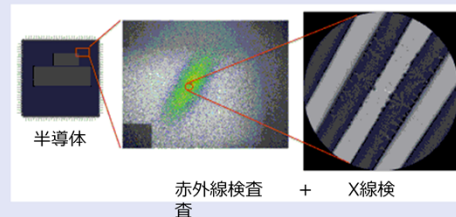
⇒ 認定校正機関として、校正サービスに加え校正証明書発行サービスを展開



### 半導体の非破壊検査システムを拡販

不具合検査向けに赤外線検査装置とX線CT検査装置を組み合わせるシステム提案

⇒ 検査時間短縮と精度向上が評価され受注拡大



・システム事業における上期の取り組み状況はご覧のとおりです。

・エンジニアリングサービスを提供する子会社のフォーサイトテクノでは、校正能力と品質の国際標準規格である「ISO/IEC17025」の認定を取得、加速度センサの分野で、国際規格に準拠した校正サービスを実施できる体制が整いました。

・国内でこの認定を取得している企業はまだ数社しかなく、加速度センサを校正後に輸出するお客様や、より信頼性の高い校正を必要とするお客様から多くの引き合いをいただいております。

・システムインテグレーションの面では、半導体や電子部品の不具合検査を行うお客様に対して、赤外線検査装置とX線CT検査装置を組み合わせた非破壊検査システムの提案を進めております。

・このシステムでは、故障部位を赤外線検査で特定し、その部位をX線CT検査で解析することで、従来手法で30時間を要していた検査時間を30分へと大幅に短縮し、尚かつ検査精度の向上も実現しました。この点がお客様にも高く評価され、受注が拡大しております。

# 2014年3月期 連結業績予想概要

[www.marubun.co.jp](http://www.marubun.co.jp)

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

・ご説明いたしました事業戦略に基づく今年度通期の見通しについてご説明いたします。

## 2014年3月期 業績予想サマリ (修正予想ベース)

**売上高は、対前期比328億円 (+14.9%)、対期初予想比275億円 (+12.2%)  
の増収見込み**

- **デバイス事業** 通信モジュール向け特定用途ICやメモリーICの増加を見込む
- **システム事業** 科学機器のパワー半導体製造用薄膜装置の減少を見込む

**営業利益は、対前期比5.0億円 (+17.0%)、対期初予想比1.5億円 (+4.5%)  
の増益見込み**

**経常利益は、対前期比8.5億円 (+34.0%)、対期初予想比1.5億円 (+4.7%)  
の増益見込み**

**当期純利益は、対前期比8.1億円 (+95.3%)、対期初予想比1.2億円 (+8.1%)  
の増益見込み**

- 前期計上の特損の減少を見込む

## 2014年3月期 業績修正予想

(百万円)	13/3月期		14/3月期		対前期比		対期初予想比	
	実績	構成比	期初予想 (13/5/8付)	修正予想 (13/10/31付)	増減額	%	増減額	%
<b>売上高</b>	<b>220,200</b>	<b>100.0%</b>	<b>225,500</b>	<b>253,000</b>	<b>32,800</b>	<b>14.9%</b>	<b>27,500</b>	<b>12.2%</b>
デバイス事業	187,247	85.0%	185,700	214,800	27,553	14.7%	29,100	15.7%
システム事業	32,953	15.0%	39,800	38,200	5,247	15.9%	△ 1,600	-4.0%
<b>売上総利益</b>	<b>17,763</b>	<b>8.1%</b>	<b>18,100</b>	<b>18,250</b>	<b>487</b>	<b>2.7%</b>	<b>150</b>	<b>0.8%</b>
販売管理費	14,771	6.7%	14,750	14,750	△ 21	-0.1%	0	0.0%
<b>営業利益</b>	<b>2,991</b>	<b>1.4%</b>	<b>3,350</b>	<b>3,500</b>	<b>509</b>	<b>17.0%</b>	<b>150</b>	<b>4.5%</b>
営業外収益	640	0.3%	-	-	-	-	-	-
営業外費用	1,132	0.5%	-	-	-	-	-	-
<b>経常利益</b>	<b>2,500</b>	<b>1.1%</b>	<b>3,200</b>	<b>3,350</b>	<b>850</b>	<b>34.0%</b>	<b>150</b>	<b>4.7%</b>
特別利益	124	0.1%	-	-	-	-	-	-
特別損失	731	0.3%	-	-	-	-	-	-
<b>四半期純利益</b>	<b>857</b>	<b>0.4%</b>	<b>1,550</b>	<b>1,675</b>	<b>818</b>	<b>95.3%</b>	<b>125</b>	<b>8.1%</b>

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

20

・通期の業績予想につきましては、5月8日に発表した予想値を上方修正いたしました。

・売上高は期初予想に比べて12%増、275億円の増収となる見込みです。

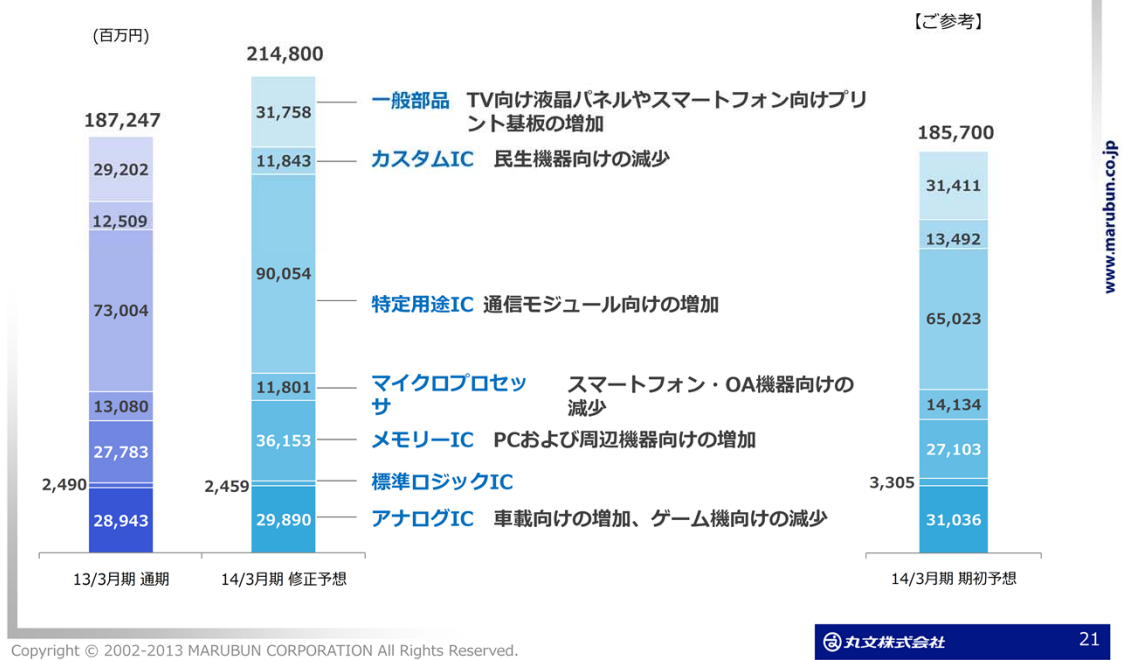
・これは主に、通信モジュール向けの特定用途ICやメモリーICが好調に推移していることによるものです。

・売上総利益率は低下を見込むものの、売上増に伴って営業利益、経常利益とも期初予想を上回る見通しです。

・前年度比で見ますと、連結売上高は14%増の2,530億円、営業利益は17%増の35億円となる見通しです。

・経常利益も34%増の33億円と、5期連続の増益となる見込みです。

## 2014年3月期 デバイス事業品目別売上高予想



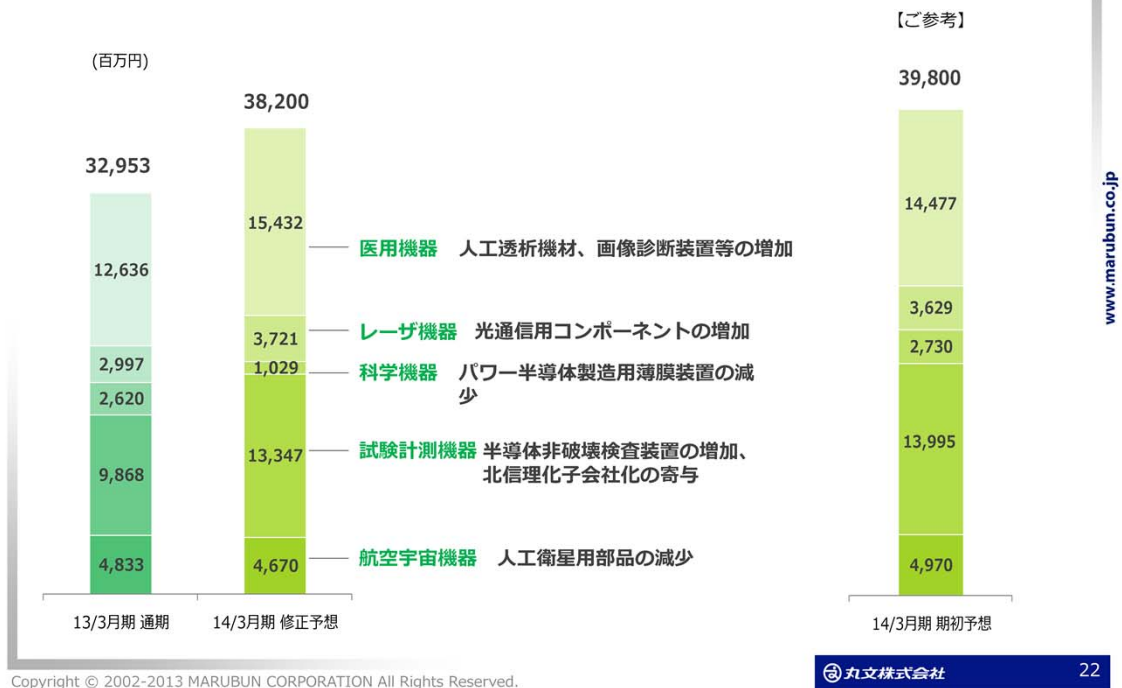
・事業セグメント別の売上見通しについてですが、デバイス事業では、前年度に比べ275億円増の2,148億円を予想しております。

・メモリーICは、PCおよび周辺機器向けのDRAMやフラッシュメモリーの増加を見込んでおります。

・特定用途ICは、通信モジュール向けの大幅な増加を見込んでおります。

・一般部品では、TV向け液晶パネルやスマートフォン向けのプリント基板が増加する見通しです。

## 2014年3月期 システム事業品目別売上高予想



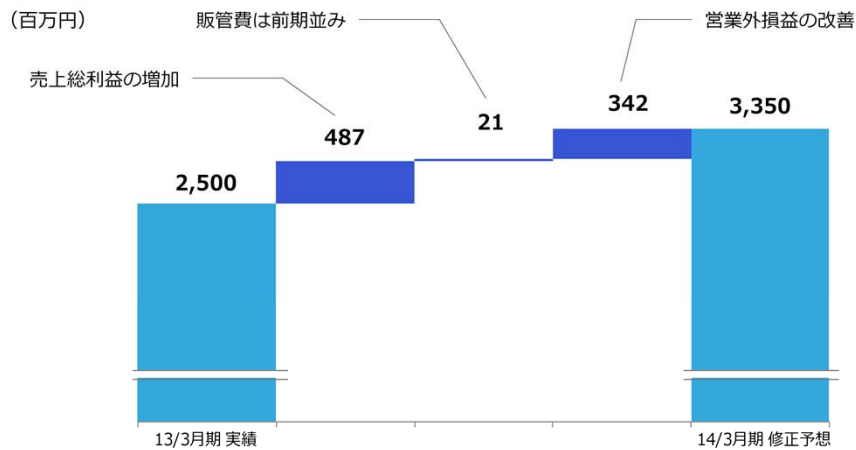
・システム事業については、前年度に比べて52億円増の382億円の売上を見込んでおります。

・試験計測機器は、持分法適用会社の子会社化による増加分20億円を含め、34億円の増収となる見込みです。

・科学機器は、パワー半導体製造用薄膜装置の減少を見込んでおります。

・医用機器は、人工透析用機材や画像診断装置などの大型医用機器の増加を見込んでおります。

## 経常利益の増減要因（前期 vs. 修正予想）



売上総利益	売上増による増加	13/3月期：177億円 ⇒ 14/3月期予想：182億円
販管費	前期並み	13/3月期：147億円 ⇒ 14/3月期予想：147億円
営業外損益	支払利息等の減少	営業外収益+60百万円、営業外費用△282百万円

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

- ・経常利益の増減要因についてはご覧のとおりです。
- ・売上総利益については、前年度より4億円の増加を見込んでおります。
- ・販管費は、人件費が減少する一方で、子会社増加による経費増を見込み、前年度並みとなる見通しです。
- ・営業外損益では、支払利息の減少等で前年度より3億円の改善を見込んでおります。
- ・以上の結果、前年度より8億円増の33億円の経常利益を予想しております。

## 株主還元

- 配当予想

(円)	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	<b>15.00</b>	<b>16.00</b>
中間配当	6.00	6.00
期末配当	9.00	10.00

www.marubun.co.jp

・ご説明した業績見通しにより、株主の皆様への利益還元については、配当金は期初予想に比べて1円増配し、年16円を予定しております。



## 持続的な成長が図れる筋肉質な企業の実現

### 丸文グループ独自の差別化を展開

#### ベースビジネスの拡大

DC機能の強化  
顧客の深耕

#### 成長市場への 取り組み強化

通信・車載・産機・  
環境・医療に注力  
関連商材開発推進

#### グローバル対応の強化

丸文アローとの連携  
海外エンジニアリング サポート  
強化

#### 組織対応力の強化

組織一体化、人材・情報・ノウハウの共有、点から面への相乗効果の創出

- ・最後に、私が目指す丸文グループの姿についてお話しいたします。
- ・ここ数年の景気の低迷と、グローバル市場での競争激化により、エレクトロニクス関連企業の経営は非常に厳しさを増しております。
- ・私はこのような環境を勝ち抜くため、丸文グループの総力を結集し、ご覧の施策に取り組んでいきたいと考えております。
- ・ベースビジネスの拡大については、先ほど事業戦略でご説明したとおり、技術力の高度化を含めたデマンドクリエーション機能の強化に取り組み、顧客の深耕、商権の拡大を進めてまいります。
- ・ターゲットとする市場については、今後成長が見込まれる通信、車載、産業機器、環境、医療分野への取り組みを強化していきたいと考えております。人的リソースを重点配置し、この分野での関連商材の新規開発、立ち上げを加速させてまいります。
- ・またグローバル対応では、丸文アローとの連携のもと、現地デザインインの強化や、顧客のグローバル展開へのスピーディな対応により、シェアの向上を図るとともに、システム事業でも海外でのエンジニアリングサポートの強化を推進します。
- ・以上の活動をベースとし、丸文グループとしての差別化、すなわち、デバイス事業とシステム事業が一体となった組織運営で、人材・情報・ノウハウを共有、融合することにより、点から面への相乗効果を創出し、当社独自の差別化を進めてまいります。
- ・これらの取り組みにより、経営の安定性と収益性を高め、丸文グループを持続的な成長が図れる筋肉質な企業へと変革を図っていきたいと考えております。

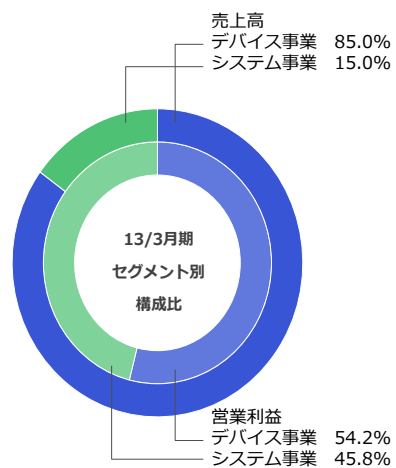
## 参考情報

www.marubun.co.jp

Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

### 会社概要

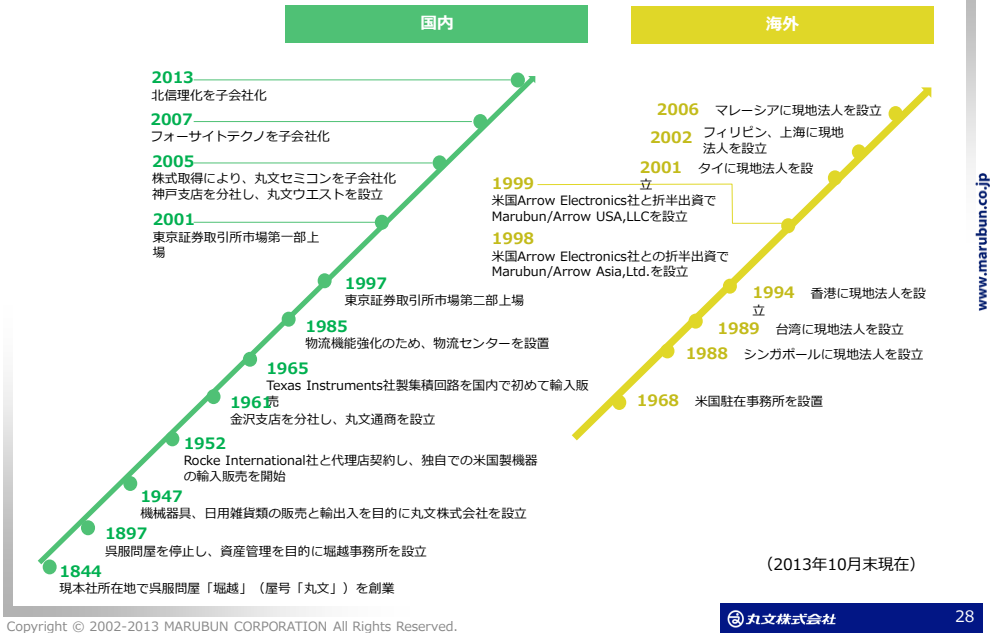
- 設立 1947年7月
- 資本金 62億円
- 事業内容 最先端エレクトロニクス機器・部品の販売
- 本社所在地 東京都中央区日本橋大伝馬町8-1
- 連結売上高 2,202億円 (2013年3月期)
- 従業員数 1,271人 (2013年9月末現在)



www.marubun.co.jp

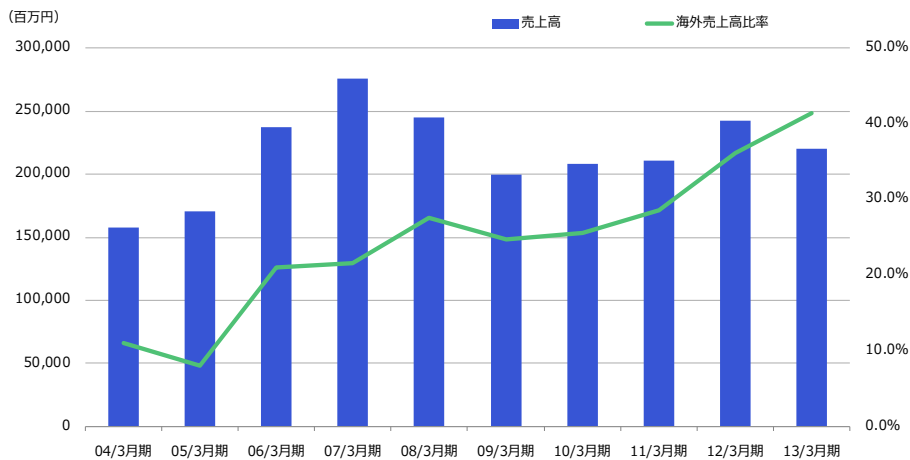
Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

## 事業の変遷



## 中長期業績トレンド

日系電子機器メーカーへの海外展開サポート推進により海外売上高比率が増加



## 国内ネットワーク

- 支社、支店、営業所
- ▲ 物流センター
- 関係会社



(2013年10月末現在)

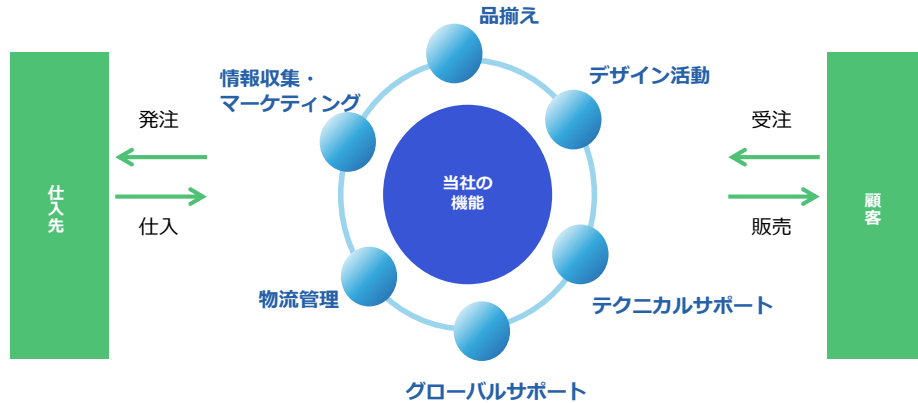
## グローバル・ネットワーク (2013年10月末現在)



(2013年9月末現在)

## デバイス事業：特徴と強み

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社との提携によるグローバルネットワーク
- 強い顧客基盤



Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

32

## デバイス事業：グループ会社概要

社名	本社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	
Marubun Semicon (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2005年3月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の仕入販売
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アロー-USAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	Hong Kong, China	1998年10月	50.0%	丸文アロー-シンガポール、丸文アロー-香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%	海外進出した日系企業への半導体・電子部品の仕入販売
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	California, U.S.A.	1998年11月	50.0%	
FTS株式会社*	東京都豊島区	2006年11月	29.3%	半導体の研究・開発、開発支援

\* Marubun/Arrow USA、FTS(株)は持分法適用関連会社

(2013年9月末現在)

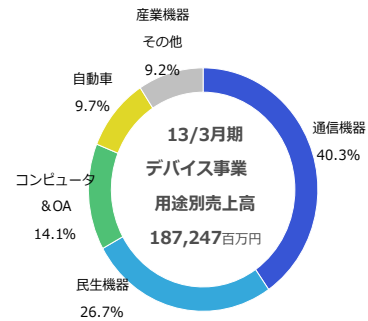
Copyright © 2002-2013 MARUBUN CORPORATION All Rights Reserved.

丸文株式会社

33

## デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）

		用途				
		通信機器	民生機器	コンピュータ & OA	自動車	産業機器
<b>半導体</b>						
アナログIC	アナログ	●	●	●	●	●
	ディスプレイ	●	●	●	●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●	●
メモリーIC	DRAM	●	●	●	●	●
	フラッシュ	●	●	●	●	●
マイクロ	MPU、MCU	●	●	●	●	●
プロセッサ	DSP	●	●	●	●	●
	ASSP	●	●	●	●	●
	ディスプレイ・ドライバ	●	●	●	●	●
特定用途IC	DMD	●	●	●	●	●
	LED	●	●	●	●	●
	カスタムIC	●	●	●	●	●
<b>一般部品</b>						
液晶パネル		●	●	●	●	●
有機EL		●	●	●	●	●
水晶デバイス		●	●	●	●	●
ボードコンピュータ		●	●	●	●	●



## デバイス事業：主要取扱い製品（サプライヤ別）

		サプライヤ（五十音順）										
		旭化成 マイクロデバイス	ISSI (米国)	インターナショナル レクティファイアー (米国)	エマソン (米国)	サムスン電子 (韓国)	セイコーエフソン	テキサス・ インスツルメンツ (米国)	トライクイント (米国)	フリースケール (米国)	プロードコム (米国)	マキシム (米国)
<b>半導体</b>												
アナログIC	アナログ	●					●	●	●		●	●
	ディスプレイ			●					●			●
標準ロジックIC							●					
メモリーIC	DRAM		●			●						
	フラッシュ					●						
マイクロ	MPU、MCU						●	●		●		
プロセッサ	DSP	●					●	●	●	●		
	ASSP	●					●	●	●	●	●	
	ディスプレイ・ドライバ					●	●	●	●	●	●	
特定用途IC	DMD						●					
	LED					●						
	カスタムIC	●				●	●					
<b>一般部品</b>												
液晶パネル					●							
有機EL					●							
水晶デバイス						●						
ボードコンピュータ					●							

## システム事業：特徴と強み

システム事業

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



www.marubun.co.jp

## システム事業：グループ会社概要

システム事業

社名	本社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器、試験計測機器及び電子部品の仕入販売
株式会社 北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 池田医療電機*	新潟県新潟市	1961年8月	41.0%	医用機器などの販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社 フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	機器の据付・保守を含めたエンジニアリングサービス提供

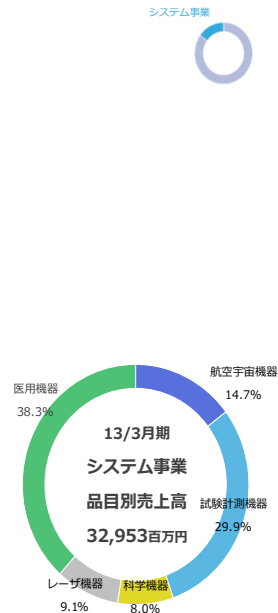
\* ㈱池田医療電機は持分法適用関連会社

www.marubun.co.jp

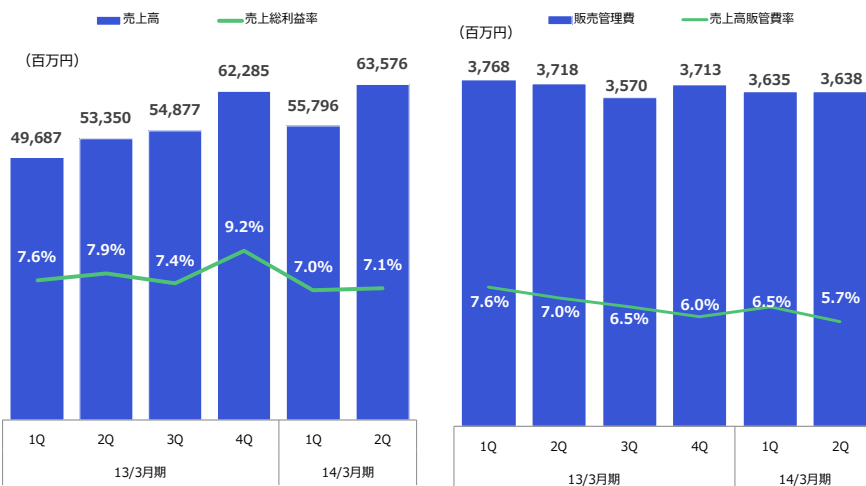
(2013年9月末現在)

## システム事業：主要取扱い製品

分野	主要取扱商品	主要仕入先
航空宇宙機器	高信頼性部品、計測・センサ	Tele Communication Systems、Plascore、Lavision
	航空関連機器	AAI、CPI、L3 Communications
	高周波電子機器	
試験計測機器	検査装置・試験計測器	ユニハイトシステム、アキム、DCGシステムズ、Chroma
	製造装置・組立装置	セイコーエプソン、Aurigin Technology、日本アビオニクス
科学機器	MOCVD装置 in-situモニタリングシステム	AIXTRON、LayTec
レーザー機器	半導体レーザー・レーザー加工機	Laserline、nLight、OSI Laser Diode
	ネットワーク・光学部品	Symmetricom、Calnex Solutions、EXFO、Excelitas Technologies
医用機器	画像診断機器	島津製作所、シーメンスジャパン、コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、カネカメディックス

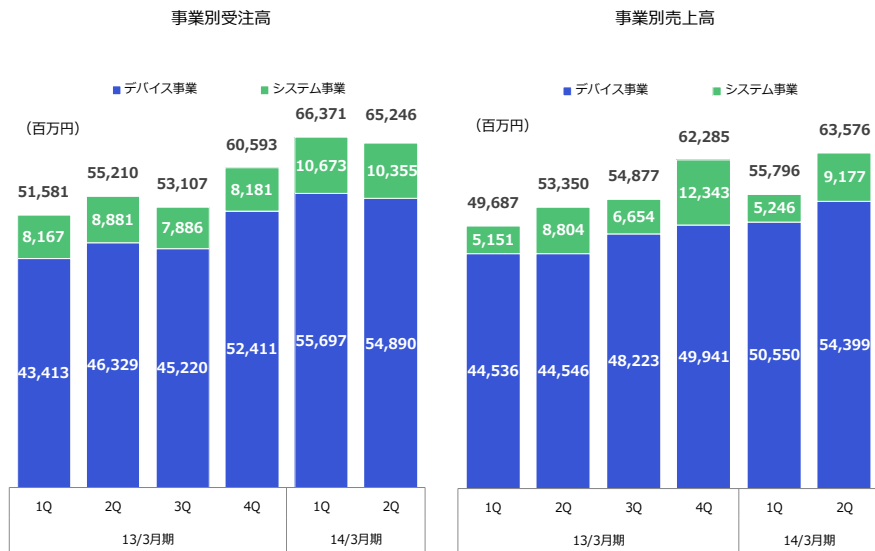


## 業績四半期推移 (売上高・売上総利益・販売管理費)

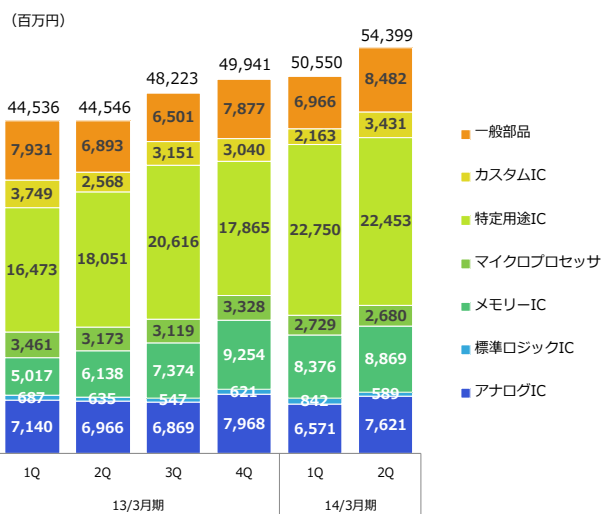




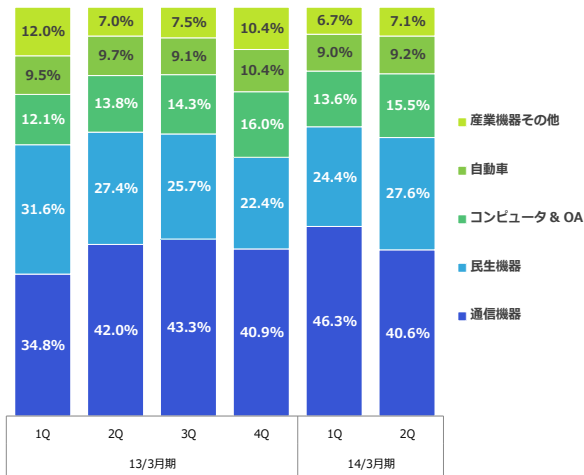
## 業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）



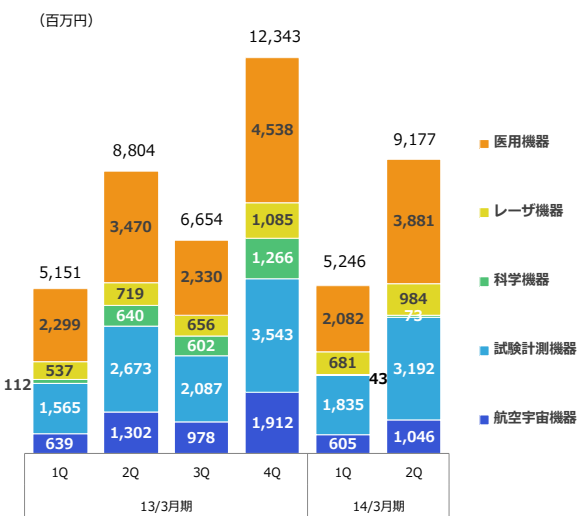
## 業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）



### 業績四半期推移（デバイス事業：用途別売上高構成比）



### 業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



## 本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性があります。ご了承ください。

www.marubun.co.jp

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp